方寸筆

前編

東西庵南北作

勝川春扇画

へ13
3853
1

Kusa:(105
Koman Ben
3 books,

小方寸筆

後編

東西庵南北作

勝川春扇画

へ13
3853
2

壬申春
新板
板元

当世紙屋雛形

とうせいかみやひなかた

前編

東西庵南北作

勝川春扇画

へ13
3853
1
Kusa:(105
Koman Ben
3 books,

前編巻之一

東西菴南北戯作

壽字染小万紅筆

二人九衛門　前編後編

二人葛の葉

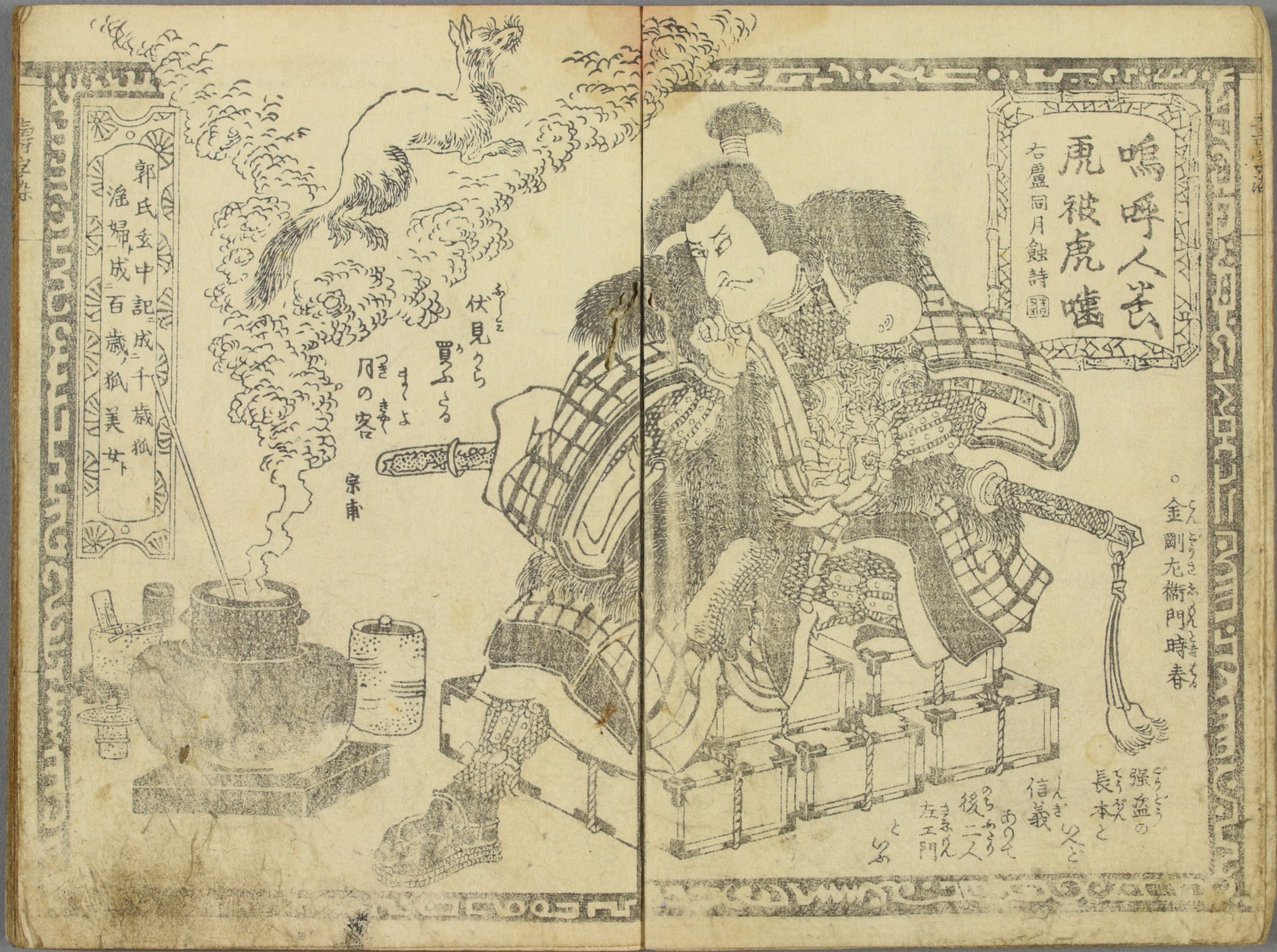
永壽堂販

文化九壬申歳孟春　全部六冊

新鐫

勝川春扇畫

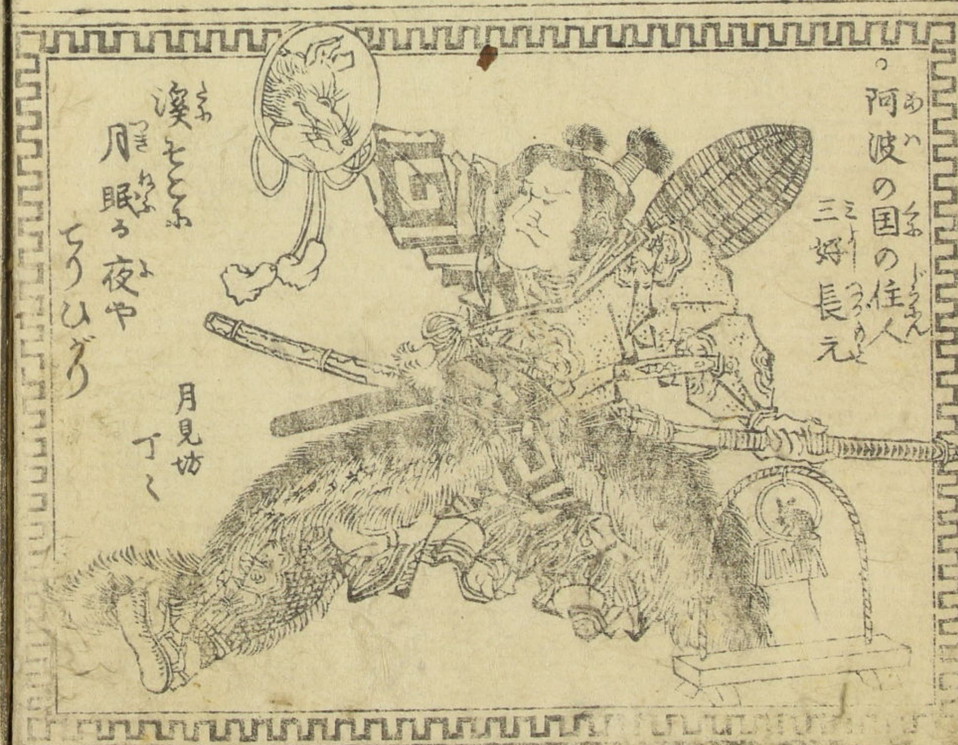
門へ13
3853
1


嗚呼人芸虎被虎噬
右盧同月蝕詩
金剛左衛門時春
強盗の長棒と
信義ありそ
後二人左エ門と
伏見くら買ふる
月の客
宗甫
郭氏玄中記成千歳狐
淫婦成百歳狐美女

諸道信義爲源
頼城葛葉
信太源藏が妻
信太の白狐葛の葉と
化して信太の庄司と
たちて
山里の日傘
庄司が女房
家考

其角の唫ふ
のきたちて
喧嘩
花ふ
鐘そむ
○孝のくもふ
一ぢん紙と
源氏新町 姫の小万
女之助 実ハ 信太源藏
流ふ
ちづめと
以ど後ふ
善報まりて家ふ帰親の
遺言を守り夫法跡をたて
諸国を廻歴して大力ふ
きて剣法ふ通暁を
むし今清潔の
婦なり
○大膳をかしし強を
あらわすとて弱を常として
よく儀をまもりがめ
女之助と仇名せり

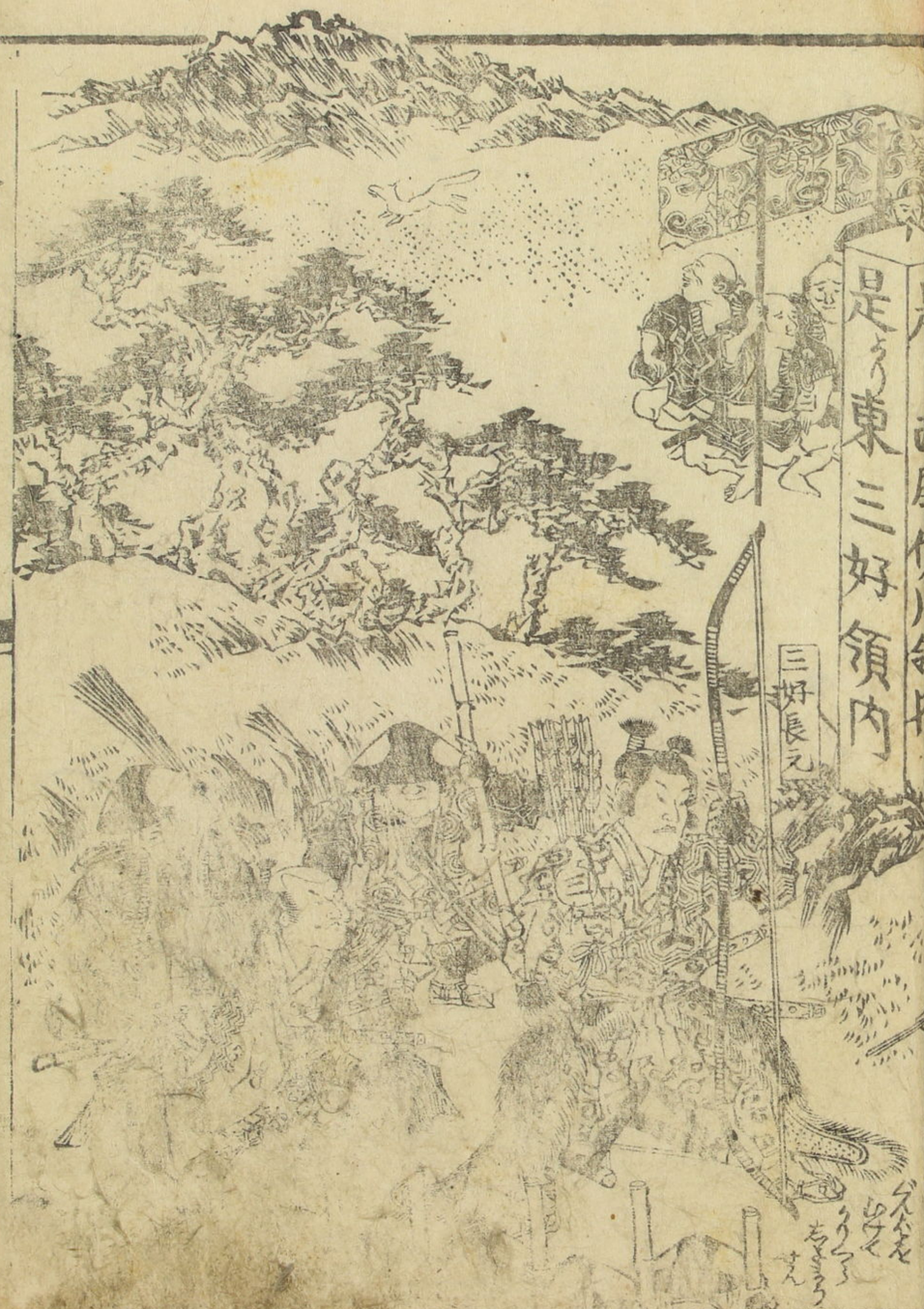
実い
赤蛮
太郎
政利
鬼の酒八
伊豫の國住人
尾佐川の息女
榊葉姫
玉堂
朝あらし
善
悪
徳島の農夫
大作
奴の小まんが
親なう
尾佐川の公達春若丸
乳人野木
乳人乳とりぬけの田ハ
きねとうる
女田笠

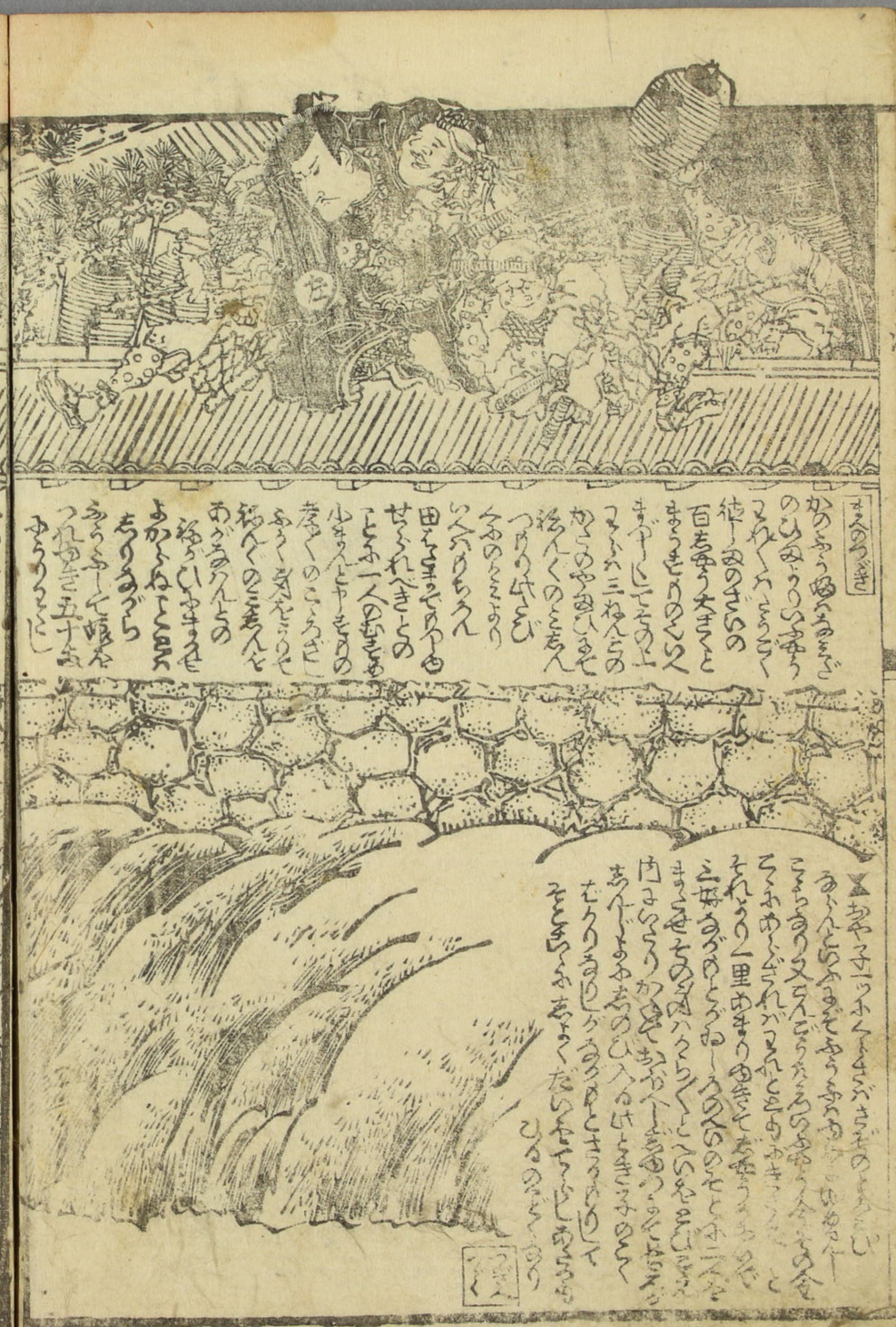


わつよん

寛永年中のころ三好長元阿波の国を平定し又尾佐川勝茂いらよのゐを平定し
すんでたがひふをあらそひ手五十ゐ手ひゐ死一七ヲのようなる
かとくをつぎ家老信田の庄司しろ
ともなりゆれがようちょ
西げんちえさんがいはしりいつさい西えんじゐ
ゆらゆゐ家ぶどういが絵を敷ゐ
のものゆゐ
つぶしてその中とをゐひきさうゐ
毒うじゐ大ゐらきどゐ
うるけとろゐ人きろのゐ
ねうふねうやゐてゐうゐも尾佐川のゐ
ゐゐひゐじそうぶるけとろまでゐひきゐ
いくきゐゐとゐひつせとをゐ
ゐうそえのりをつしゐらちとゐひそのゐんゐ
ようちとゐゐうりゐのとろへんさうゐけた
ぶんとしてゐとんせんなんきのゐきの絵ゐうんと
ゐきえくそゐひえくさゐきとゐとそゐびきんと
ゐゐじくとのりのゐうちゐとゐゐゐてさゐ
せゐくれば三ゐ
うゐじきゐゐをえてゐじうゐをねゐ
ゐくゐるゐくゐゐいゐくさんけいゐくゐちかくりね

乳人松木
信田源寺
信田庄司


是より西尾佐川領内
是より東三好領内
三好長元



さんにんのつぎき

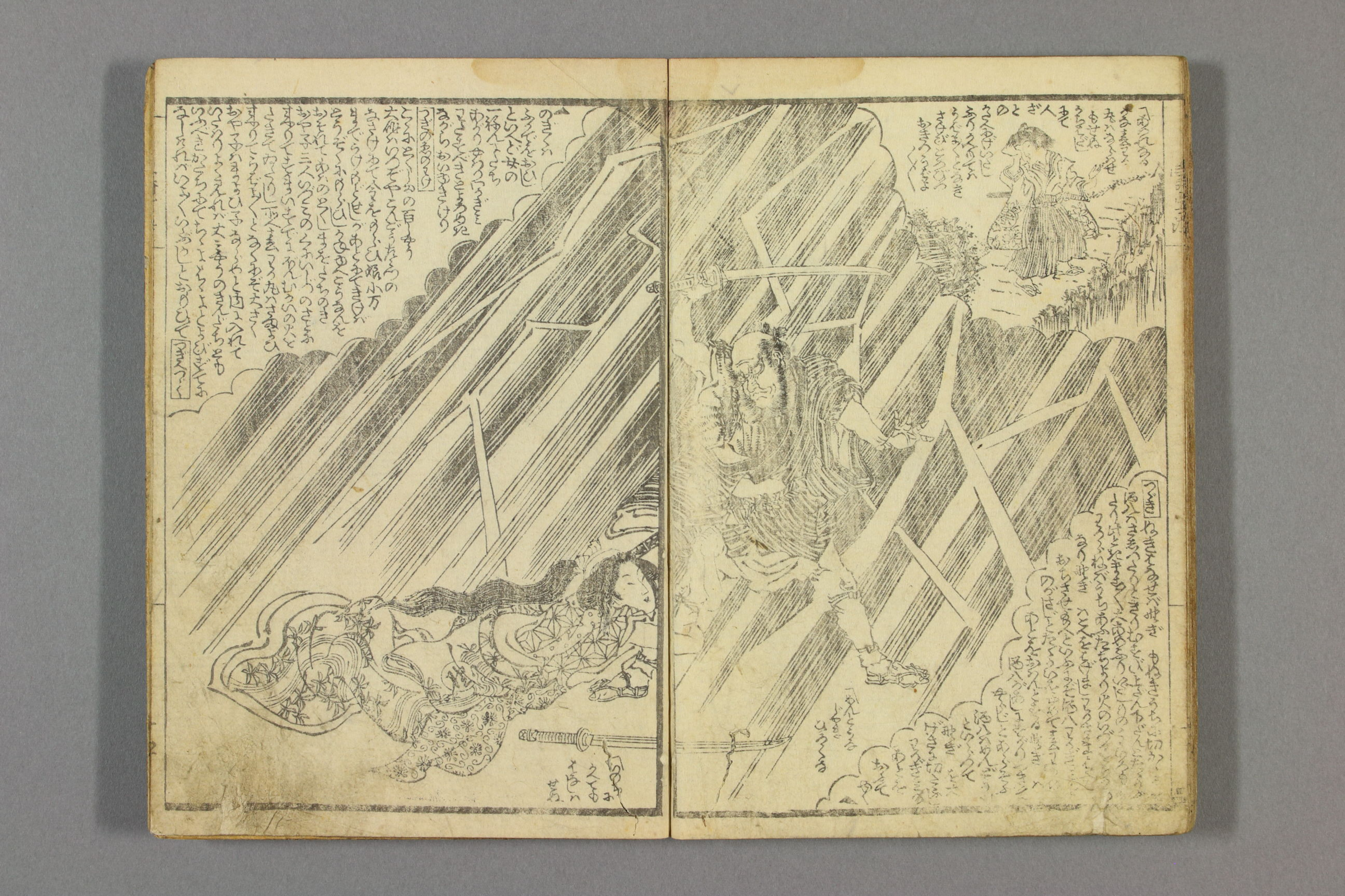
さんにんのつぎきさんにんのりんをあらそひて
ゆきとわるゆきをふりて三よう一長えんがうきさとよう武百ぬ
ゆありのかをねをとこのりのぞくてんところ付おろかふおごりを
ふるひいどしろのおどろのびのぎるひいらせてふとぶあられそれ
ねをとびとこまとらふるどころをあれあまこのりんの子ひしくと
ろりまりひとうさんぎもものとうりのどうやきうれば
りのをのふるぎとやんでやくるくるげのひりとき
へのようぢのぐれびつぐぶうさまこと
あてあさんちまちちんいやーのどくし
今まひのあとりんまちく
さうんさふるひこうんと
ワぐまのーぢあふ
ふくれべのあいじとや
ふひうんまのんぶうんぶ

▲うしろくるまがこれらんのまろまち
とこうるり付ふう井もりんやーで
ぐそうくどとろさらればうぐりく
りんやうのろぐそりやたじりけたり
ゆきまうのかしあるや ハうあやーれ
ちひきようとト
ちうぐど

▲かりうるまろう
ぐうろトかぐづうをひとろよ
ふてくうんのつひの上よりるげ四
ふうふあむうひうあくうれ山ボ
ようでうふへられてハのちのうどす

おやうつはこの一ーまハつぐるきいちい
ゆきとてたあのれそれらくくのところをあちう
しうふかのふうくぐもどろきまうくうもうひどやーい
をもうんぐーてもちうもろう
○和てんぐどちんくんくのゆふありとしくぐもゆきうう
ゆんゆくかくめうふれて長えがまくゆひきいぐされう
てんどうちんくんがありてをくくうんくそれうりちりべ
たちあまうにしちきゆくてぐんれんもつけおうぐとそのを
とんぐどうちんにまうよりしあぐーれいよくもとうさう
ろ井ようのちりんのちくきたちのあうとひとしくあとうりのゆまうひふぐびもゆく
いぜんのぐくんくうらをとゆくうりしうぐとんぐどうちんくうきうとうろうけ一人り天た
ゆくんでいうありゆ年きうまうひちくうのやーさうんゆひうくとうちうぐどゆ付ろくーまー

まくのつぎ



つぎ
まろうこぎよ
ありのあひるのぞんどん
まあ〜せさんハろぎこ
ゆばしかるこんるれど
今かわしてゐし
りのこりうえを
よびそえこせよと
いろうぞうみのい
りそめこ
いろ〜とすし
おごめる
そうしも
そとりの
ろくふ女の
うろ〜え
きこえ
ゑれい
ち飛
又
仏の
みれ〜おそ
てのま
ろ〜こ
ぎ
ふ
とれらを
あらう
ふりてぐ
女のこぎ
まづく
おうえを
あきま
ぎう

あやーたこへのまるごとゆひつ〜
あひをとりつのぞこれが新八四ぢおちりき
安さろあやふさまをとりてこれおろう
大姫よりくるれいせんさいのむまやあや
おさろきと紀人ゆられるまろうれとおきみ
がわをつんをとられべきやちもうくをちハ
升き　でいるいりとのゆよ升き　目を
つんひろきおすハちのさのときろれ
ぢしさいろうんらとのろ〜ぢろるのい
うちわどちき目ふきられろ
まろうろハ一月ろるよりろぢろろ
いふわわき　もうろぎこを
かきのぢれおや大姫ふむひ
ぢんろうのこうぢう又ハ
ろあて鬼の酒八と
いふうのふあやられ
ぢめぢうろ〜ハ八ろで
あてろうゆぢ死ろ
うハ在伊川の月ろう
をうわそろうぎこを
ろぢしいまろれろうあが
三象萬靈

前編三冊終　後編出版仕候

東西巷南北戯作

春扇画

筆耕　石亦知道

つき　ひのまのかゝをゑをゑくらいいりとゆまんさうれりやよりつこゝろも
ちぐいようろ〜ゐせのまへのつゐとき入う世いあろれとのふも
おろろろり大さくゑしめおやとこゝへのゑけきまゝゑぐゑのたなへの
ゑもつきこゝれてうりやゐきびよゐめをそゝぐゝとおりふ
なろりゐりかくてゐのぐきとゝゐあゝねがゐろうのてらよちろりりて
七日くをいとゐゑしがある日大熊八小まんホいふゐうゝれいゝーゐちそ
りのゝくゐふくゝをゐゐき　がいまへのゝのゝふまろせ
尾張りのゐろいんゝうゐきんぐちのぶーを
つげこうゐいせんぐうゐまをゝてゝうれか
こんぐうゐをゝうゐまをゝてゝうれか
ゐのにふゐりとを
ゝゝとんのまきゐめか
千羽つるのゝろり
ゝうかいをゝろいび
そのゝきりつゝ
ぜゝれゐがゐんをゝを
ゝれよといひーが
そのゝちきくふいのちゝ
ゝまろりとあれが
ゝゝぐうんゐをゝろ祝ゝふをつゝまゝゐ
これへぐんのきゐりゝそゐうゝせんどをも
ゝゝらはゝーゝゝこゝゐゐ壮ぎ　がかゝゝれゝ
鬼の酒八ゐれがこれどもたゝゐいびてゐ祝ゐりゝゝをゝう
ちゝゝまゝゝーこのちゝくゝいひゝりゐゝれがふまんかゝとくゝも
あやのゐーくゐゐゝゝりひそのゝこゝうんゝぐゝうゝゝゝうゝせんぎ
きゝびーくゝゝうゝゝくゐふゝさゝうゝきあれがこれをゝさのゝりひと
きりのゝりゐゝにをゐゐりびををりゝをゝと女ゝてゝとゐりゝてゝこゝをこの
くゝへとゐりゐきゝりゝりゝゝの仕ふまん男まゝきゝりの大力なんぐ

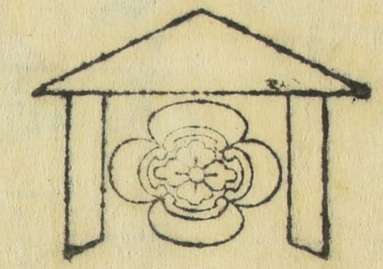
▲あゝとの小まんと
ゝゝゐゝうきれゝしと
かや

壽字染小万紅筆

南北作
春扇画

へ13
3853
2

門へ13
號3853
番2



巻之四

二人左エ門
二人葛葉 壹時字深小万紅筆 後編 東西菴南北作

つゞき これおよるてひあすあいりけてけさてうーこじハ首うんそいぐさやすーいきゑ
ちょうぐーうんぢくうりておくーふここみひもとかーふめいぐきんハんてうらうゆと
いふうぐ庄司ハあくーうのくふおとううくせがきんとちあんこきぐあいつあう
かくゆくれーうハぜひもゆしちゆーじの首うんそきあ
おくーこきうそくあくべーこむう町のあくゑんと
おくにおゆーけよハくぐのまあがくびさうそ
ひあぎここの角くうりくと色しりあふれなべ
うちちちしてれねうゆくハあくじと
祝くぐをあうせそくぐのまあとよび
いどいうあくうえぢゆ一ッの祝ぐひあの
きくうぐひてえきうせよと
いふまくぐのまあハ
ゆとこうち
くくひちく上
まゑの

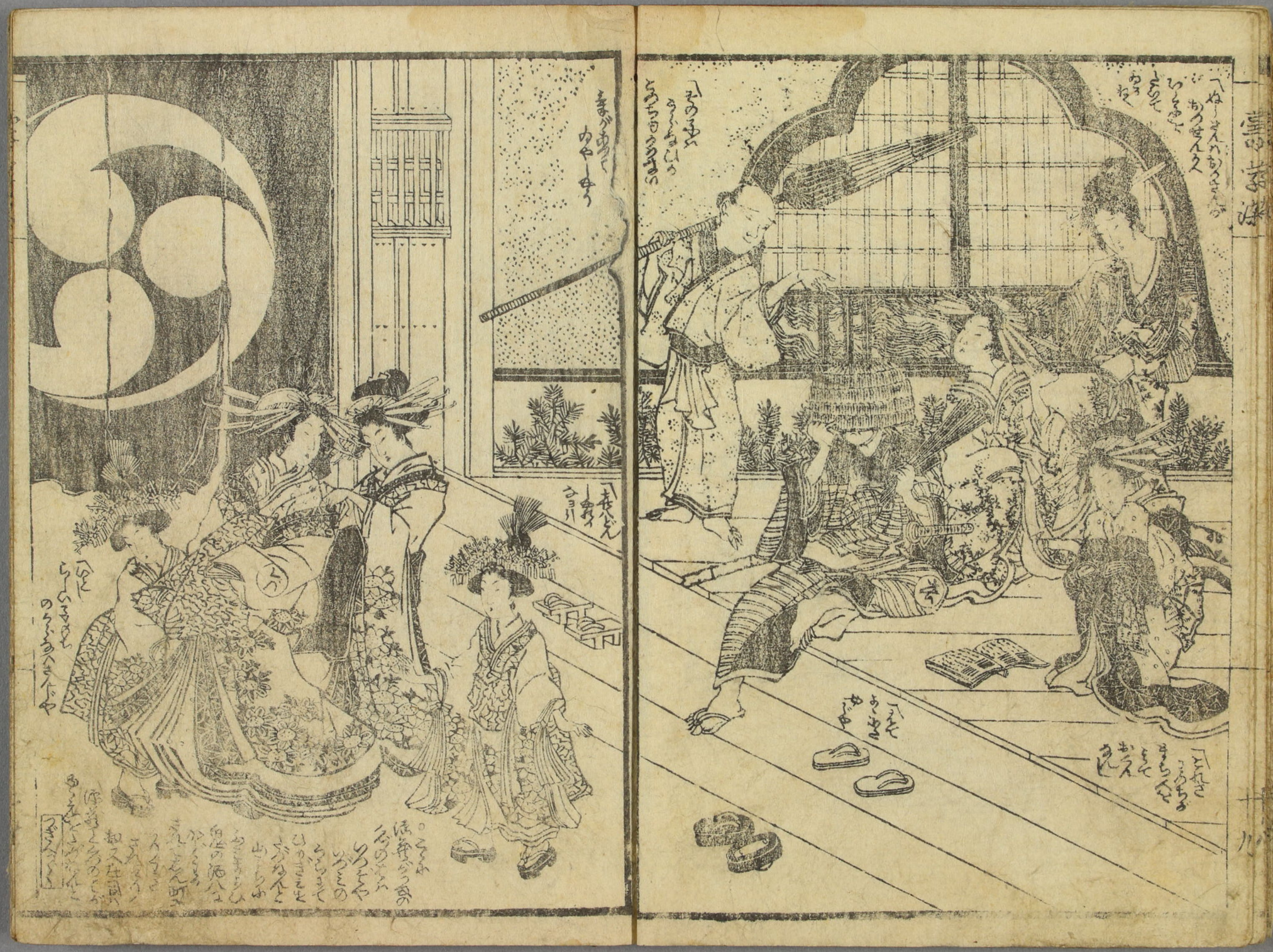
おねぐひとハ
ゆのくふゑ
あじこくらゆ
むう町くの
げんあのふぐひあく
ひあぎここの角くうりふ
くくうぐ金くゆくれくとの
くくのくべーこいうゆぐ庄司ハ
ゆくこぐこれぐそくうぐきいうふちくぎの
くあーやこて紙のこくゆのあくうのめくとうふ
中くよき源ゑくうもあくふきくと金ゑれくとくの
いくゑ角くと意こもあやくゆもありうくゆもいくうね角くう

「ひあ
ぎこの
ゆきくうら」

さくきゆ
ひあのくびと
ゆきくうそ
くち
かくうる

庄司ハつくゆのさくくうくくくくくきくくトくくくくくふくひあり
ゆくくくーくくゆぐくくくくく

「きんぴらのきろめど
ありしまう



何水猶雪不消見

浅草名所八

細井光澤畫圖

つぎ　りてのらうれんくあるまろの
ようのうそめりしあのうのべー
さとれハ今あべのあそともこべ子
あそこにあくべかくてもゝじん
尾徒川ハのてきまりてあぜもも
あさとこのいんをんろまーあろごと
ろろろてものべるふとあの
こまろこれ今とべうたくらい
ろべうあうさてあまとのあやひと
うてめりしやとれこい
ちくべひろうこれーあやと
まことのあやとおりひ
るべのきれーあとふて
ハそのつとこんろけこれこを
あろまろのようひうりころひ
ハそのとれようこまこくふまわ
のべりへ今到たろとを名のりこうころの
ちゆうあんとうりくあまこのまやたかこひ
をりとくいたこあげてのくべあるを尾徒川の
家とあろ所そのうえうあこれせあのゆくんと
ちんべそさのちうそちくこともこすーまろのとふ
こあのまれいろべやせんちうのくあべあて尾徒川の
ひあとうべひとうてこすたこしこそべふいべが
せーくべこれまそこしいせんべそのうくこどさんせーと逆ひーふ

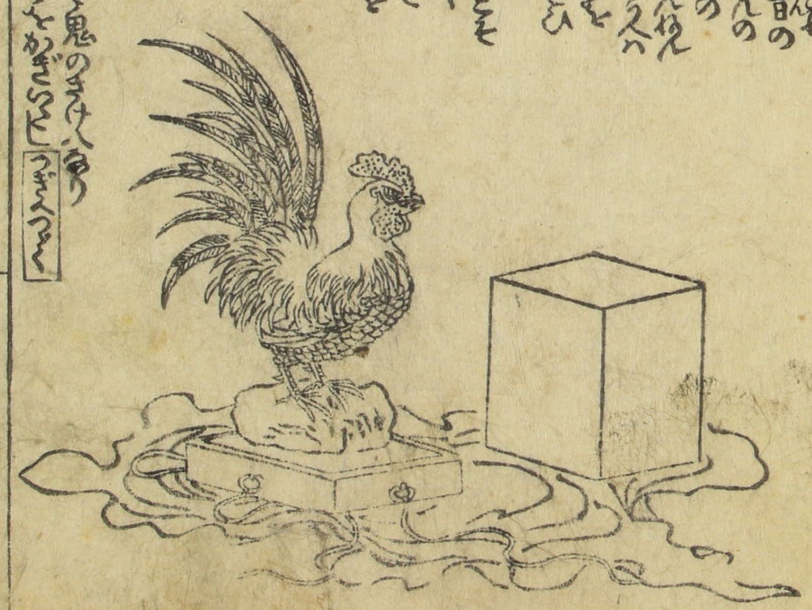
つぎの巻

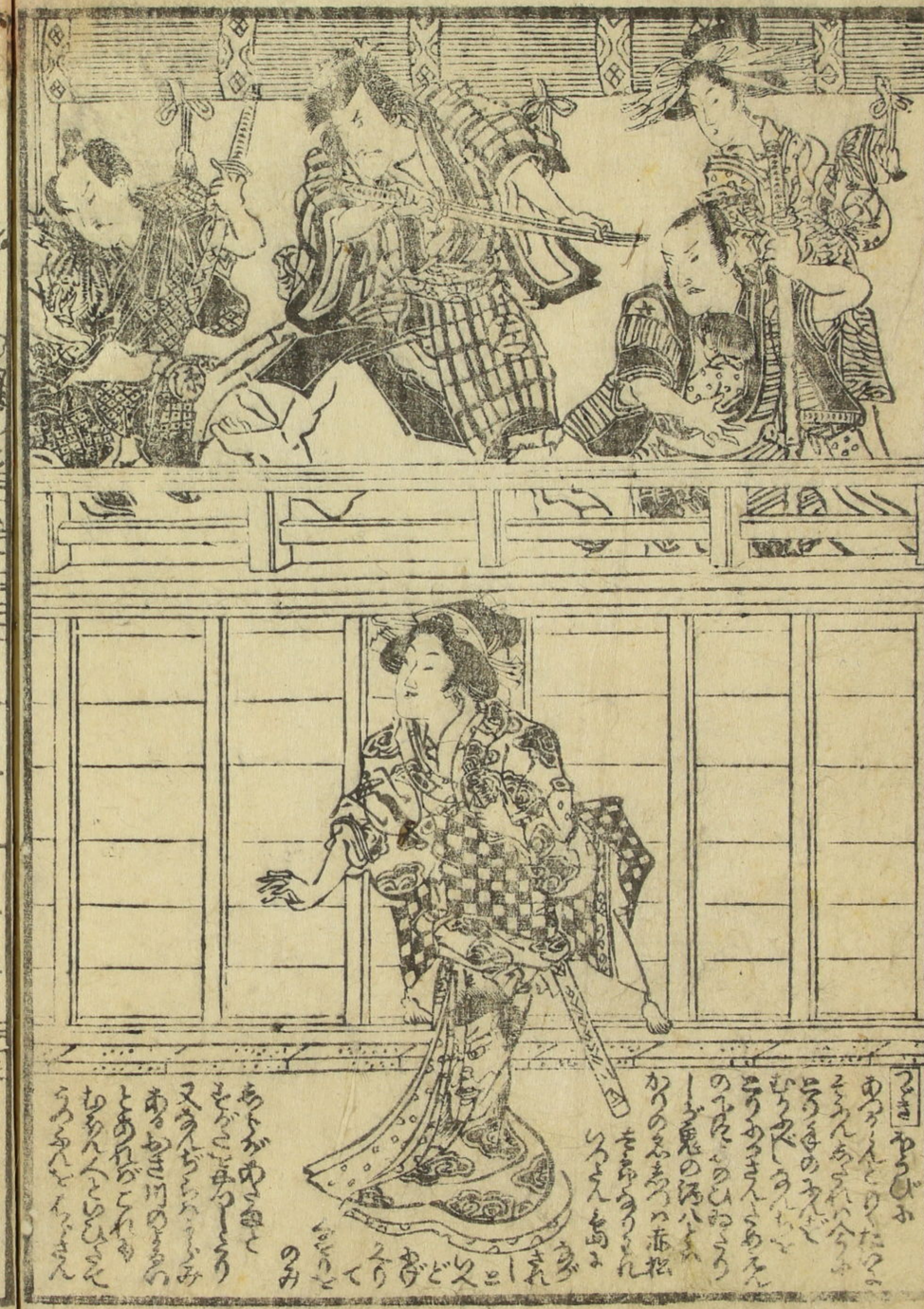
「ハそのべところ
べべくふまれい
ハべさろころ比こ

五さろ目のうつき

今のうのかうときけハうてきうハゆべで
うーんまりーやかこうくれ刃のちべざるこそ
ざえゆんまりこえひと毎こあまろのけべべとうあげ
ひとあろこそいべころこまべくしてちゆんああくせーこれ
あまろのくんちくけけのべまべまりしゆまろうこれ獣の
よあまうふまくあて一くんのこのこのひこけせんとさんの
けのべこどんくふきうこれて又このこうこうこうあつけの
うこうこうこうこして沸騰ふこそのこうこうもせんけん
さうきまふけやけこしみきうこうまあのひいりこうきこふひ
うれこすーのきこまあうふあのひいりこうまあのれこうけうえハ
うべひかくーくまわーべこトいこあ庄司おやこあいこ
こうあうちこうこうべきこうのけのりこうこちべにやこのこあふ
かこうくんの小万ちくこくあうこうこうこうこうこそ
こうくべべのくあけくべのくまーくのこのこけけちこ
ちうこのこめのこ狐ぎ　ハ小万べゆあこうこはこハこうこまこ
鬼の酒ハこゆやこくれてこうまくこりしこべあこうこ
りのべこれハおのくーくんえんのふこきこここうこうこれハ
つけても目ざこかこきこハみこー　ちこりこと又ハ
鬼のこけハこうこらゆこりしもゆこつげのかこうこ
こうこてんこうこと紙をこうーこれハ庄司ハまあふ
ちこうこせこゆてきくけこうこうこの紙こいべこと射ハ
このあこうふあゆきこりのありこきこしこうあこうくく
こうここつけこれこここふこりしもこのまあこうこのび
こうこうん鬼のこけハえんのちこまりゆくこれこそこそ鬼のこけハ
けやどけんぎきびーきこうこ到こうこはやふゆこふーこかぎこうこ

つぎへつづく



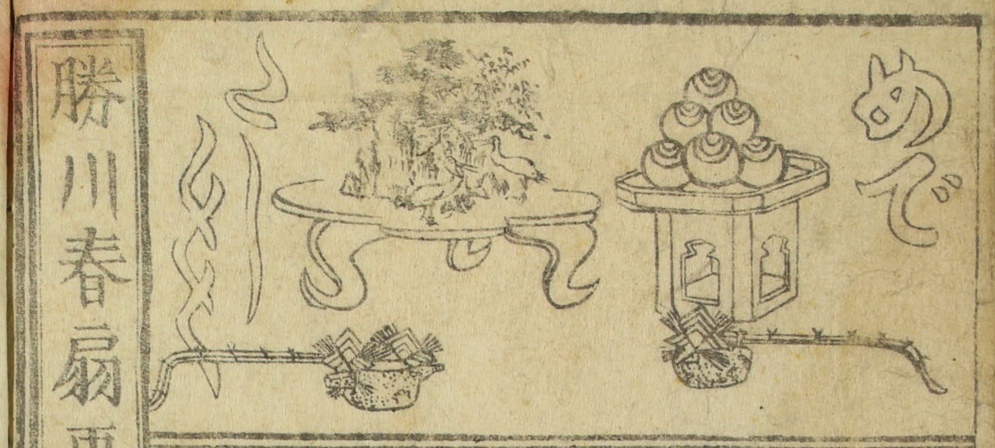


つぎ

三好長元
金剛左エ門
赤松太郎ゞ首
小まん
百性大伴
信太源藏
信太の童子
春若丸
信太庄司

明治四年辛未弥生月為表具

印傳屋一所持



勝川春扇画

東西菊南北作

小泉新八